



可燃ごみの処理の現状と 新焼却処理施設整備基本計画について

～ごみの減量化に向けて～



庄原市

(環境建設部環境政策課)

美しく輝く 里山共生都市

目 次



- 第1 ごみの搬出量と処理の現状・・・・・・・・・・3
- 第2 可燃ごみ処理の課題と方針・・・・・・・・・・12
- 第3 新焼却処理施設整備基本計画・・・・・・・・・・15
- 第4 ごみを減らすための取り組み・・・・・・18
- 第5 まとめ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・21

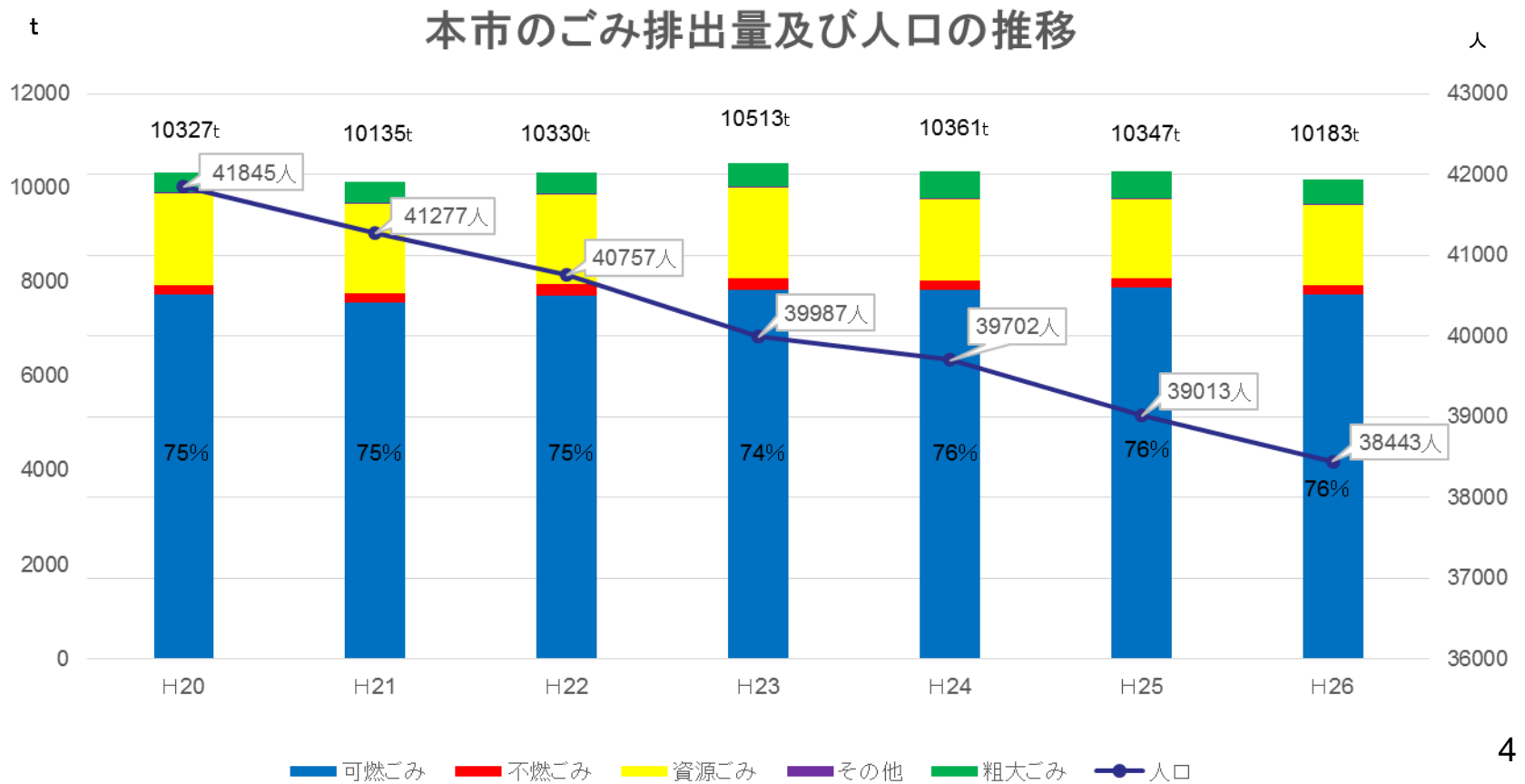
第1 ごみの搬出量と処理の現状

- ◎ 人口は減少しているのに、ごみの排出量は減っていない。
- ◎ 事業系のごみは増加傾向、生活系1人当りの排出量も増加
- ◎ なぜ、ごみは減らないのか。
- ◎ 複数のごみ処理施設は割高な処理経費となっている。

1) ごみ排出量と人口の推移



・人口は減少しているのに、ごみの排出量は減っていない。

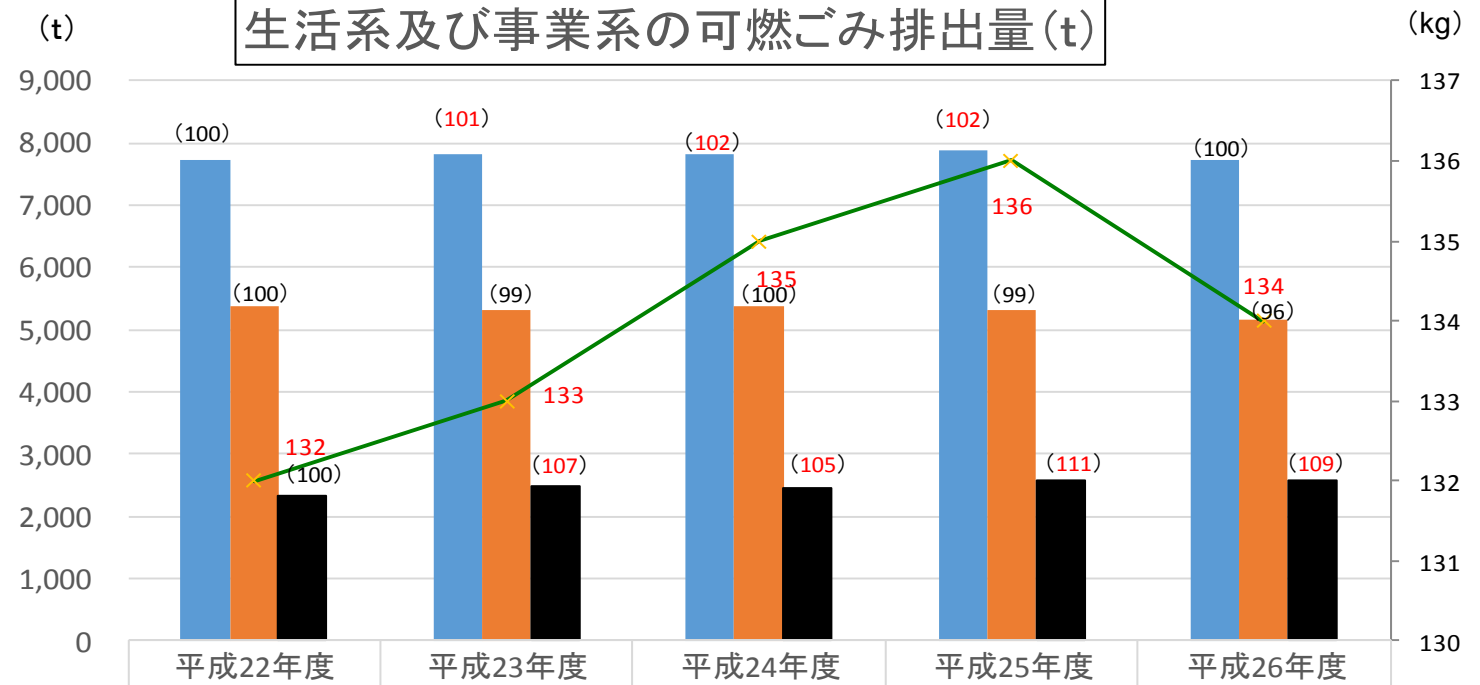


2) 可燃ごみの内訳



- ・事業系ごみの排出が増加傾向
- ・生活系ごみ1人当りの年間排出量(kg/人)も増加

生活系及び事業系の可燃ごみ排出量(t)



■ 全体	7,714	7,824	7,834	7,874	7,734
■ 生活系	5,370	5,325	5,366	5,313	5,168
■ 事業系	2,344	2,499	2,468	2,591	2,566
✦ 1人当年間排出量(kg)	132	133	135	136	134

■ 全体 ■ 生活系 ■ 事業系 ✦ 1人当年間排出量(kg)

※ ()は平成22年度の比率



3) なぜ、ごみは減らないのか

- 事業系ごみの排出が増加傾向にある。
- 片付けに伴い、粗大ごみとしてまとめて排出されている。
- 可燃ごみに新聞などの紙類が多く混ざっているなど、分別のルールが守られていない。
- 洗って汚れの取れる容器包装プラ等が可燃ごみとして搬入されている。



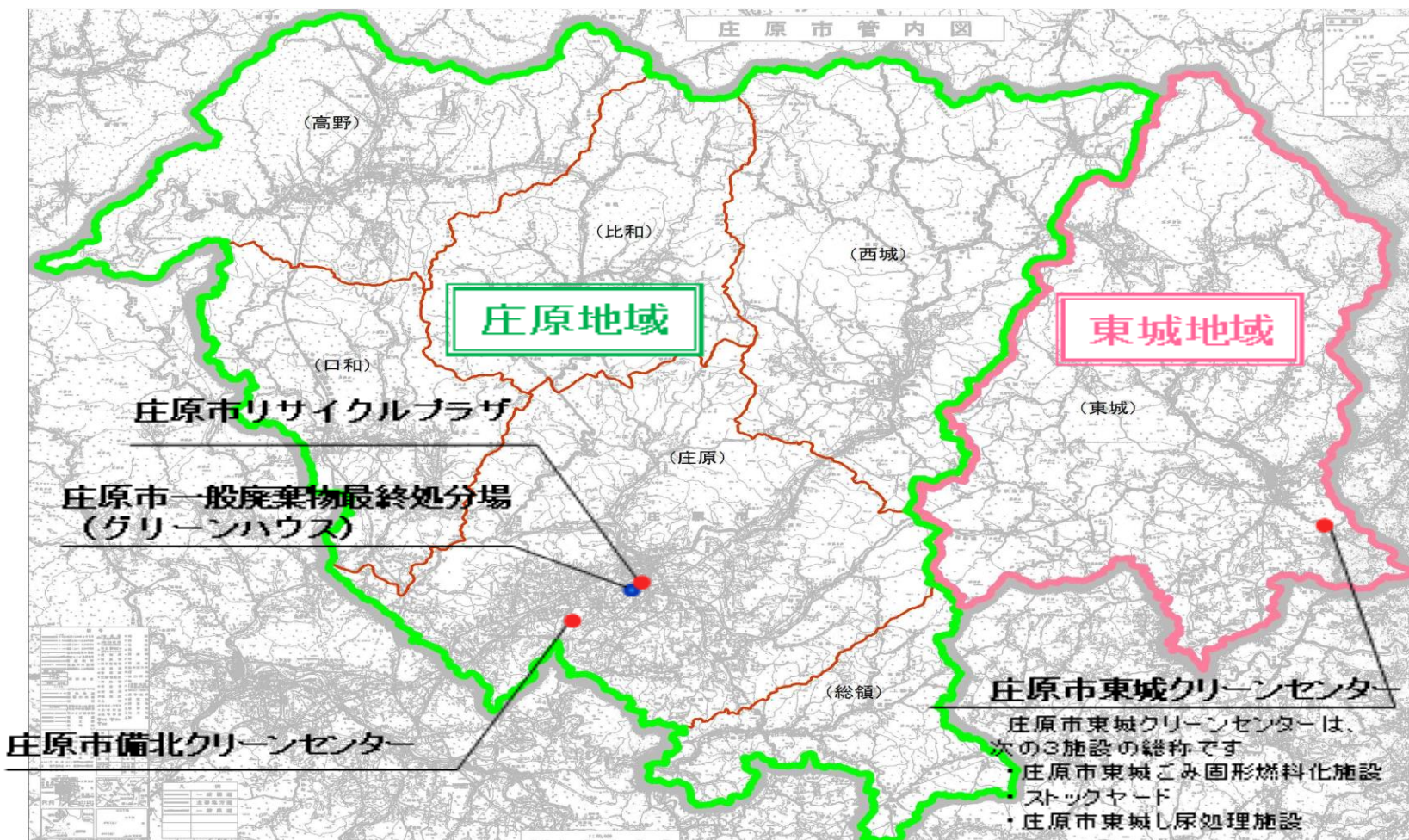
4) 現在のごみ処理施設



- ・ 可燃ごみ処理施設を2施設管理運営している

* 庄原地域 備北クリーンセンター

* 東城地域 東城ごみ固形燃料化施設





4-1) 備北クリーンセンターの現状

施設名	庄原市備北クリーンセンター	
竣工	平成2年2月 (平成14年2月:基幹改良)	
処理能力	40t/日(20t/8h×2炉)	
年間収集量	6,082t(平成26年度実績)	
処理方式	焼却	
対象地域	庄原・西城・口和・高野・比和・総領	
現状	<ul style="list-style-type: none"> ■ 施設建設から約26年が経過し、施設更新を迎えている。 ■ 地元自治会との協定による設置期限(H34.3月末)が迫っている。 	
処理経費	214,699千円(平成26年度実績)	



4-2) 東城ごみ固形燃料化施設の現状

施設名	庄原市東城ごみ固形燃料化施設	
竣工	平成14年11月	
処理能力	19t／日(19t/8h×1系列)	
年間収集量	1,652t(平成26年度実績)	
処理方式	固形燃料化	
対象地域	東城	
現 状	<p>■ <u>福山リサイクル発電(株)との固形燃料供給契約が、平成34年3月末まで稼動予定。</u></p>	
処理経費	97,423千円(平成26年度実績)	
RDF製造量	850t(平成26年度実績)	



5) 可燃ごみの処理経費の状況 (H26年度)

- 可燃ごみを1ト処理するために必要な処理経費(処理経費÷年間収集量)は、
 庄原市備北クリーンセンターで約3.5万円、
 東城ごみ固形燃料化施設は約5.9万円と割高である。
- 市全体(可燃+不燃)のト当り処理経費は約6.1万円、県内全体約3.9万円と比較しても割高な処理経費となっている。

平成26年度実績

可燃ごみ	年間収集量(t)	処理経費(千円)	1t当り 処理費(円)	備考
庄原市備北クリーンセンター	6,082	214,699	35,301	(可燃)
庄原市東城 ごみ固形燃料化施設	1,652	97,423	58,973	(可燃)
合計(平均)	7,734	312,122	40,357	(可燃)
(参考) 県内全体	918,221	35,654,707	38,830	(可燃+不燃)
庄原市	10,183	621,855	61,068	(可燃+不燃)

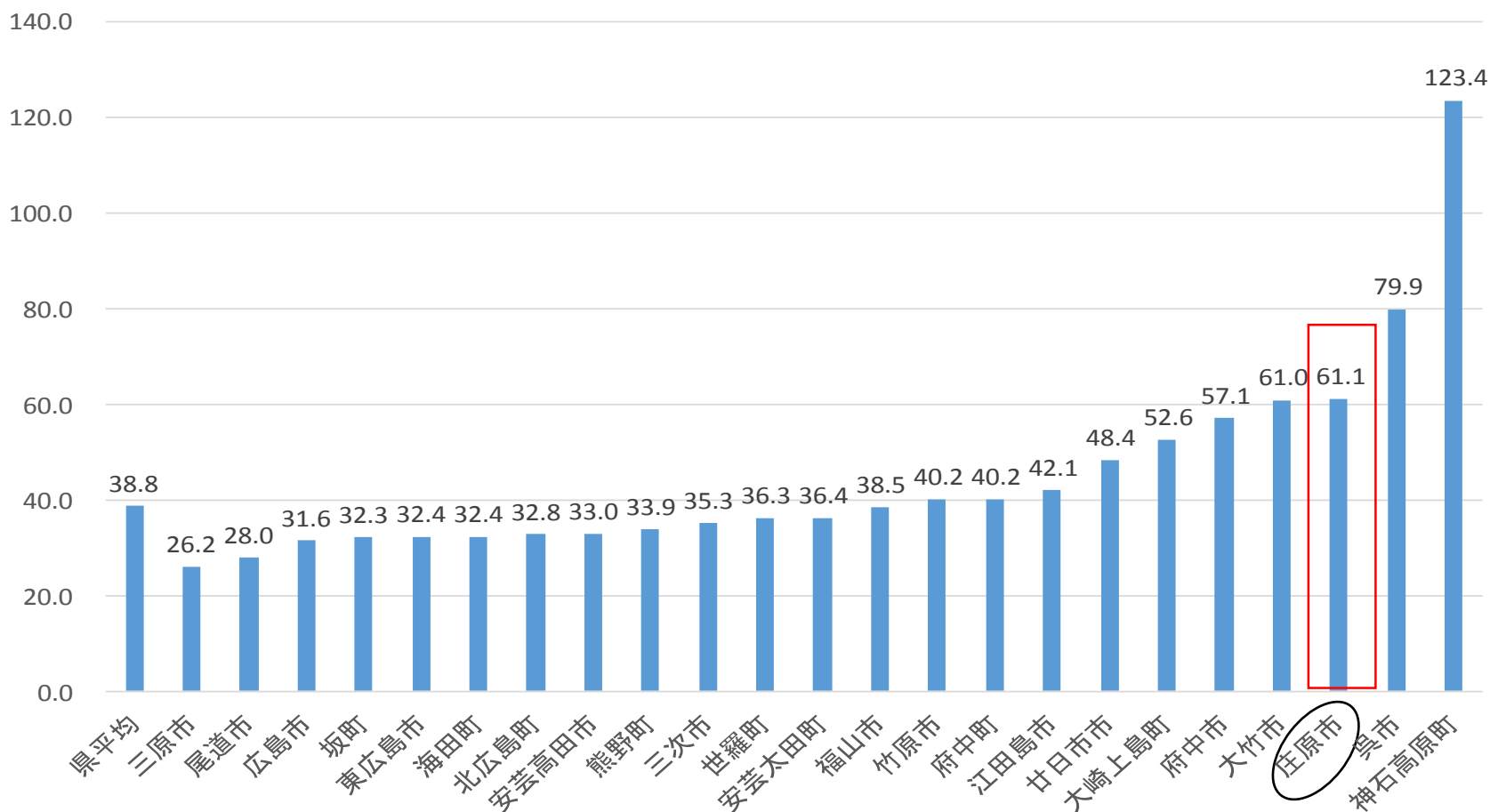
6) 広島県内のごみ処理(可燃+不燃)経費



(H26年度)

- ・ 広島県内で3番目に高い処理経費となっている。

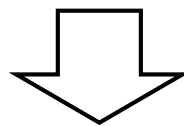
ト ン 当 たり 単 価 (千 円 / t)



第2 可燃ごみ処理の課題と方針

課題

- ◎ 2施設共に供用開始から15年以上経過しており、特に備北クリーンセンターは施設全体の老朽化が著しい。
- ◎ 地元自治会との協定における設置期限、固形燃料供給契約終了が迫り、早急な対応が必要となっている。
- ◎ 処理方式の違う2施設を抱え、ごみ処理経費が県内他市に比べ高額となっている。



方針

ごみ処理体系を統合し、新焼却処理施設を整備。



1) 庄原市一般廃棄物処理基本計画



- H26年11月策定
- 新焼却処理施設の整備：市全体を統一し、1処理体制へ集約化。

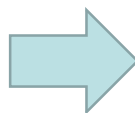
庄原市一般廃棄物処理基本計画



「自然との共生で暮らしが輝くまち」を目指して



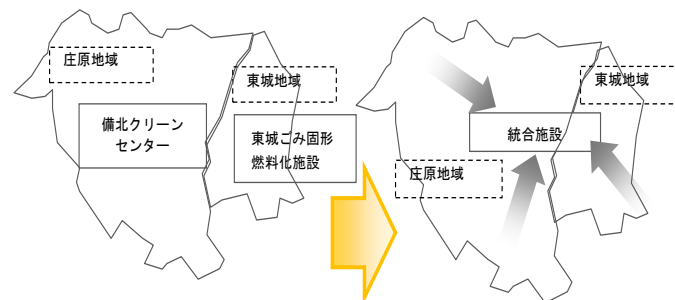
平成 26 年 11 月
広島県 庄原市



【新焼却処理施設の整備】

・効率性・経済性を考慮した処理体系

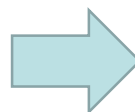
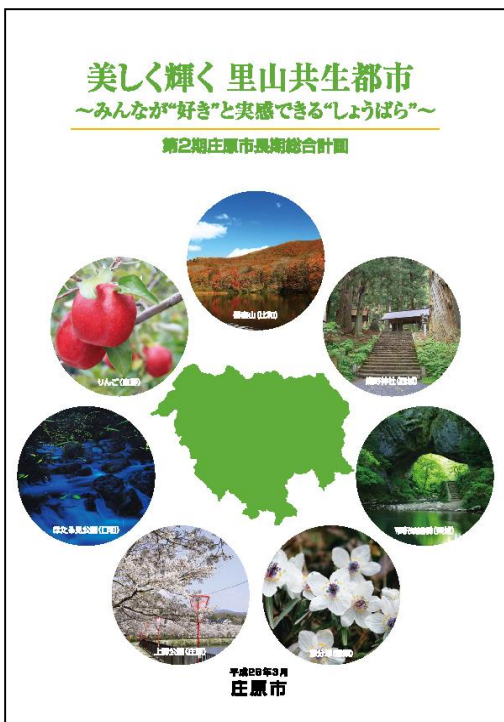
庄原地域と東城地域で2つのごみ処理体系を運用していますが、処理の効率性や経済性を考慮して、1処理体制に集約し、市全体を統一することを検討します。



2) 第2期庄原市長期総合計画



- H28年3月策定
- 新焼却処理施設の整備：処理体系を統合し、施設を整備。



【環境施策の推進】

- ・ 一般廃棄物処理方法の最適化

備北クリーンセンターは、供用開始から相当の年数が経過し、地域との協定期間も満了を迎えることから、東城地域と他の地域のごみ処理体系を統合し、新焼却処理施設を整備します。

第3 新焼却処理施設整備基本計画

- ◎ 可燃ごみ処理量の約8割を占める備北クリーンセンターの設置期限を目途に、施設を集約化し、H34年4月供用開始を目指す。
- ◎ 処理経費が割高で、可燃ごみ処理量が2割の固形燃料化施設を廃止する。

- ◎ 総事業費：約56億円（概算）
- ◎ 施設規模：34トン/日



第3 1) 整備スケジュール



・施設を集約化し、H34年4月供用開始を目指す。

区分	実施年度	事業内容
工事発注過程	平成28～30年度	<ul style="list-style-type: none">・用地選定・循環型社会形成推進地域計画策定・造成計画・測量地質調査・生活環境影響調査・施設整備発注仕様書作成・その他(埋蔵文化財調査・都市計画決定)・用地取得
工事施工過程	平成31～33年度	<ul style="list-style-type: none">・敷地造成・プラント建設・施工監理
平成34年4月 供用開始		
解体過程	平成34～36年度	<ul style="list-style-type: none">・ダイオキシン・土壌汚染対策調査・備北クリーンセンター解体発注仕様書作成・備北クリーンセンター解体撤去工事



2) 施設規模とごみの減量化

・ 建設コスト・運営コストの面で、可燃ごみの減量化が必要です。

- ・ 大規模事業であるため、国の補助金を受ける予定。
- ・ 国の補助金要件 ごみの削減目標設定と目標値による施設規模の算定<現状の施設規模 備北CC 40t/日 東城 19t/日…>
- ・ 一般廃棄物処理基本計画 H24年度実績を基に、H40年度までに年間総排出量の約20%(約1,755トン/年)削減を目標とする。
- ・ 施設は削減目標に応じた規模となり、現段階では34t/日と試算。
- ・ 施設建設費(近年上昇傾向)
トン当たり建設費 約1.37億円/トン × 34トン/日 = 約46億円
調査設計、用地、敷地造成及び解体撤去等 = 約10億円
合計 約56億円

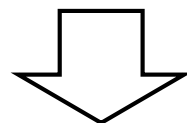
第4 ごみを減らすための取り組み

◎ 行政として取組むこと

- ①ごみ分別の啓発
- ②補助制度等の活用促進
- ③事業者への啓発

◎ 市民の方々に取組んでもらいたいこと

- ①ひとりひとりができること



3 Rの推進、ごみの減量化

※ 3Rとは(リデュース(ごみの発生抑制)、リユース(再使用)、リサイクル(ごみの再生利用))



◎ 行政として取組むこと

・ごみ分別の啓発

分別徹底のため、出前トーク等の啓発活動
衣類の分別回収を全域化

・減量化のため、補助制度等の活用促進

生ごみ処理容器等購入補助金の活用
再生資源物回収報奨金の活用

・事業者等への啓発

レジ袋の使用抑制、過剰包装の抑制、
店頭回収の促進、排出ルールの見直し検討

◎ 市民の方に取り組んでもらいたいこと



・ひとりひとりができること

1. リデュース(発生抑制)

ものをごみにしない、ごみを発生させない。

- ・ 使い捨てをしないようにしよう。(マイ箸・マイボトルなど)
- ・ 必要のないものは買わない・もらわないようにしよう。
- ・ こわれてもできるだけ修理して長く使おう。(家具など)
- ・ 調理の量はほどほどに！生ごみの水切りをきちんとしよう。

2. リユース(再使用)

自分では不要になってしまったものも、すぐには捨てず、活用する方法を考える。

- ・ 人に譲ったり、別の用途で使ってみよう。(着れなくなった服・絵本など)

3. リサイクル(再生利用)

どうしても出してしまうごみは、資源に戻して、有効に利用できるようにしましょう。

- ・ きちんと分別しよう。

第5 まとめ

- ◎ 将来に向けて可燃ごみの処理が適正、
且つ、持続可能となるよう、共に考え
共に行動しましょう。
- ◎ 市民のみなさんの協力が必要です。
ごみの減量化に取り組みましょう。





完

ご静聴有難うございました。

庄原市環境建設部環境政策課

